

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
1年	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えや思いを、言葉や文章で表現することが難しいため、表現技能の指導や、安心して表現できる環境整備をする。 話の内容を正しく聞き取ることが難しいため、基本的な聞く態度の徹底が必要である。 助詞「は」「へ」「を」や、促音、拗音を正しく書くことが難しいため、言葉や文章を書く活動を、十分に確保する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本文型を示し、文章を書く技能を身に付けさせたり、語彙を増やしたりして、表現力を高める。 話を聞く基本姿勢を示す。正しい姿勢で座り、相手の目を見て、心も相手に向けて聞くことを、繰り返し指導する。 生活科や図工科等、他教科でも文章を書く活動を増やし、表記の仕方を実践から身に付けさせる。推敲の習慣も付けさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 各教科や日常生活で感じたこと、考えたこと、分かったことなどを文章に書いて振り返る活動を増やす。 自分の考えや思いを相手に伝える場面を確保し、表現力や語彙力を養う。 図書室指導の際に、様々な分野の本に触れさせ、読書への興味・関心を高めると共に、語彙力を増やす。 音読の宿題を毎日出し、家庭と連携して言葉に触れる機会を増やす。 スピーチを日常的に取り入れたり、友達の意見に対して質問や感想を伝える時間を確保したりして授業にて話をしたり聞いたりする時間を増やす。 ICT機器を活用して漢字や助詞の反復学習に取り組みせながら、自信をもって文章を書く力をつける。 漢字の学習に毎日取り組ませる。宿題でも漢字を出し、家庭学習との連携を図る。
2年	<ul style="list-style-type: none"> 集中して話を聞き、話の内容を捉えて感想をもつ力を付けるために、授業の中で、少人数で話し合う活動を積極的に取り入れる必要がある。 文章を書く力を高めるために、身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、自分の思いや考えを書く活動を多く取り入れていく必要がある。 新出漢字をしっかりと定着させていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 個人で考えたことをペアやグループで交流し、それを全体へと広げていく学習を行う。自分の考えを交流し合うことの楽しさを味わわせるとともに、質問や感想を伝え合う活動を多く取り入れる。 文章を書く活動を増やし、「はをへ」などの文章表現の仕方を実践的に身に付けるようにさせる。 意図的に読書の時間を確保し、日常的に文章に触れる機会を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> 「話す・聞く」の学習では、相手の話したことを受けて答えたり、質問したりする活動を通して、相手の話をきちんと聞く姿勢を身に付けさせる。 授業の中で、感想を書く、意見を書くなど、自分の考えを表出する機会を増やす。書くことが苦手な児童に対して個別に対応することで達成感を味わわせていく。 語彙を増やすために、新出漢字を使った熟語を集めたり、普段の学習から意識的に漢字を使うように指導していく。
3年	<ul style="list-style-type: none"> 話を聞き取ることによって課題が見られるため、大事なことを落とさず集中して聞くことができるように指導を行う必要がある。 文章を書くことに課題が見られるため、「書く」活動を増やし、作文をすることへの抵抗感を減らしていく必要がある。 新出漢字をしっかりと定着させていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分で考えたことをペアで交流し、それを全体へと広げ、検討していく学習を行う。自分の考えを交流し合うことの楽しさを味わわせるとともに、友達の考えに触れる活動を多く取り入れる。 ノートやICT機器で文章を書く活動を増やし、それをお互いに交流させることを通してたくさんの文章に触れさせる。 語彙を増やせるように新出漢字の学習の際にさまざまな言葉を集めたり、熟語を作ったりさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「話す・聞く」の学習だけでなく、普段から「人の話を聞く態度」を意識して指導する。指示を聞くことができるよう、集中して話を聞く姿勢を育てていく。 書く活動では、ICT機器を活用し、手本となる児童のノートなどを共有することで、書き方を知ったり考えの幅を広げたりできるようにする。 登場人物の気持ちや情景を考えながら音読をしたり、疑問に思ったことや意味が分からない言葉は積極的に辞書を引いたりする活動を意識的に増やす。
4年	<ul style="list-style-type: none"> 話を聞き取ることによって課題が見られるため、授業の中でメモを取りながら話を聞く活動を積極的に取り入れる必要がある。 文章を書くことに課題が見られるため、自分の思いや考えを書く活動を多く取り入れ、書くことへの抵抗感をなくしていく必要がある。 新出漢字をしっかりと定着させていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> メモの取り方や話の聞き方、文章の読み取り方について、細かく具体的に指導を行う。話の内容を要約し、まとめる活動をしていく。 文章に触れる機会を多く設ける。 一問一答型の授業ではなく、対話的な授業作りをする。 文章を書く際には、既習漢字を使用することを徹底する。 	<ul style="list-style-type: none"> 朝の会のスピーチ活動や、帰りの会でのきりりさんの発表など自分の考えを伝える活動や、友達の考えを聞く活動を増やす。 国語科だけでなく、算数科や体育科での振り返りなど各教科でも「書く」活動を増やし、書くことに慣れさせる。 漢字と音読の学習に毎日取り組ませる。家庭学習とも連携させ、言葉の活動を充実させる。
5年	<p>漢字を読むことへの理解度は高い傾向ではあるが、読み取りや文章にまとめたりする問題への得点がやや低い傾向が見られるため、「文章読解力」と「文章を課題に応じて書くこと」への丁寧な指導が求められる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 授業で、友達の発表を聞き取る活動を多くする。ただ聞き取るのではなく、メモなどを活用させる。 家庭学習でも、漢字や計算以外に音読以外で文章に触れる課題を実施する。 どのような教科においても「読み取る力」を高めるために、段階的な読解法について指導する。 	
6年	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の書き取りや読み取りについて、日常的に取り組む活動をしている。しかし、学校での学習活動や家庭学習における取り組みにおいて、漢字の読み取りが全体の課題であることを児童へ意識付けすことや取り組みに向けた動機付けなどが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 朝の会のスピーチ活動を通して、様々な分野の言語を発表したり聞いたりすることで、言語活動の充実を図る。 宿題の自主学習への取り組みを通して、自分の興味のある内容で気付いたことや疑問に思うことを調べ、まとめることで言語能力の向上を図る。 	

[様式3]

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（社 会）

#REF!

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
3年	まちたんけんやスーパーマーケット見学など、学校としての積み上げで、良質な体験学習が整備されている。一つ一つの体験活動をより意味のあるものにするために、事前・事後の学習を充実させる必要がある。	まちたんけんやスーパーマーケット見学に行く前には、一人一人に予想をしっかりと立てさせワークシートに記入させる。見学後には、予想についてどうだったか、新たな気付きはあったか、もっと調べたいことはあるかなど、振り返りを充実させる。	方角や地図記号など、地図を読み取るうえでの基本的な知識を授業で繰り返し取り上げ、定着させる。そのうえで、地図や写真などの資料を読み取る力を育てる。とくに地図の読み取りを繰り返し行い、複数の情報を読み取る経験を積ませる。
4年	限られた授業時数との兼ね合いの中で、児童主体の問題解決型の学習が十分に推進できていない。自分の調べたいことについて、児童が自ら資料を選び、読み取り、ノートにまとめていく力を育成する授業を目指していく必要がある。	すべての単元で、充実した問題解決型の授業を進めていくには時数が足りない。単元ごとに軽重をつけるようにする。児童一人一人に、「これについて知りたい、調べたい」という強い思いをもたせるような単元の導入を行い、主体的に学習させていくようにする。	たとえば水の供給やごみの処理について、たくさんの疑問が生まれたとき、学校の授業の中ですべてを取り上げ、解決していくことは難しい。総合的な学習の時間と連動させ活用する。たとえば単元の終わりに、授業では取り上げられなかった内容について、総合的な学習の時間を使ってさらに深めるよう指導をする。
5年	一問一答系の得点は高い傾向ではあるが、文章から読み取る問題がやや低い傾向が見られるため、何が問いになっていて、どの資料を見ながら答えていくのかについて、丁寧な指導が求められる。	・ヒントコーナーでヒントを出したり、交流活動で自分の考えに他者の考えを取り入れたりしながら、社会的事象の意味を考える学習活動を展開させていく。 ・教科書の枠を越えた指導(先人の生き方、暮らしの発展後の様子等)も必要に応じて行う。	・教師が一方向的に与えた資料から子供が読み取るだけでなく、子供が自分の能力に合った資料を選択できるようにしていく。 ・動画、eライブラリ解説を活用し、児童の能力に応じた問題演習ができるようにする。
6年	・3つの資質・能力が高いため、教科書や資料集だけでなく、ICT機器やゲストティーチャーを活用した発展的な学習を展開する必要がある。	・教科書や資料集を使って、全員が同じ調べ学習をするだけでなく、児童一人一人がそれぞれ問いをもってICT機器などを活用しながら調べ学習ができる時間をつくる。 ・単元の最後では、学習したことを様々な方法でまとめさせる。	・ゲストティーチャーを活用し、興味・関心をさらに高める。 ・単元の最後にまとめたものを、他の学級と交流できるようにする。

[様式3]

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（算 数）

#REF!

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
1年	<ul style="list-style-type: none"> 数の概念の定着が十分でないため、具体物を数える経験を多く積ませる必要がある。 問題場面を式に表すことが難しいため、数の関係を半具体物を操作したり、図に表したりする活動を丁寧に扱う必要がある。 計算技能に個人差が大きい。ブロック操作をしながら計算したり、計算カードを活用したりして習熟を図る必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 具体物を操作する活動を経験させ、数の感覚と量感を育てる。 問題場面の通りにブロックを操作し、加法・減法の場面を捉えさせる。具体物を抽象化するために、操作→図→式の段階を丁寧に扱う。 答えだけでなく、考え方を説明させる活動を増やす。 計算カードを活用して、計算技能の習熟を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 答えだけでなく、考え方を図や言葉で説明する時間を取り、論理的思考を伸ばす。様々な考え方を伝え合い、思考力を広げる。 他教科や、身近な日常活動の中にも数学的な要素を盛り込み、数に対する興味・関心や量感を高める。 基礎計算の習熟を図るために、きたコンのドリルを活用したり、家庭と連携して毎日計算カードに取り組んだりする。
2年	<ul style="list-style-type: none"> 結果は概ね良好であるが、3つの数の計算では基本の定着が必要である。 必要な情報を読み取って、答えを求める問題に誤答が多かった。 文章問題の意図を読み取る力に課題がある。具体的な場面で活用する力を付けるために、量感を育てる活動も取り入れていく必要がある。 計算処理能力を高めるためのドリル学習は、引き続き取り組んでいく。 	<ul style="list-style-type: none"> 普段の学習から問題場面をただ書き写すのではなく、場面を想像したり、式を決定する重要な言葉を見つけたりして、問題を理解する力を高めていく。問題提示の仕方を工夫し、自分たちで問題文を考える活動を取り入れる。 具体物を操作させ、量感を育てたり、計算の考え方を身に付けさせたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 考えたことを友達に説明する機会を増やし、考え方を理解させたり、深めたりする。 計算カードを使ったドリル学習と併用して、ICT教材にも取り組ませ、定着を図る。 他教科や日常生活の中でも算数を活用する場面をつくる。
3年	<ul style="list-style-type: none"> 10000までの数・分数において、誤答が多いので、数の概念についての基礎・基本の定着が必要である。 正方形を正確に描くことができない児童がいるため、形の概念の定着とともに、丁寧に作図に取り組む意識を向上させる必要がある。 計算技能に個人差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> 具体物を操作させ、量感を育てたり、計算の考え方を身に付けさせたりする。 正方形、長方形、直角三角形などの作図をする際は、個別にも対応し、丁寧に正確に描くことを繰り返し指導する。 習熟度別の授業を生かし、基礎・基本の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> eライブラリやデジタル教科書などを活用し、計算の仕方・考え方の定着を図る。 普段から定規を使って線を引くことを意識させるなど、さまざまな学習場面で作図に必要な技能を習得させる。 つまずきのある児童に個別に指導する。
4年	<ul style="list-style-type: none"> 結果は良好であるが、意味を理解せずに技能だけ身に付いていることが分かった。筆算に出てくる数の意味を理解できていないことが顕著に表れていた。 図形や長さ、重さ等を捉える力に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 「答えが正しく出せること」＝「計算ができる」のではなく、意味を理解して説明する力まで身に付けさせたい。自分の考えを書くことはできても、友達同士で説明する力が不足しているので、伝え合う時間を多く設けていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 習熟度の差が大きいので、早くできる児童には教科書の補充問題やきたコンでドリル等に取り組ませる。時間のかかる児童には基礎的な問題をしっかりと理解できるように個別的な指導を行う。
5年	<ul style="list-style-type: none"> 既習事項への定着が全体的に図れていないため、基礎基本的な問題はできるものの、発展的な問題に対する苦手意識が見られる。 図形など、数学的な見方・考え方の経験値は高いことが読み取れるが、設問に対する読み取りの甘さから勘違いして立式している傾向や問いの意味が理解しないまま回答している傾向が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 全員が発表したり、体験したりする算数的活動を充実させる。 課題解決の際に、苦手な児童に対しても分かるような説明ができるようにする。まとめ方についてより具体的な目標を明示する。 既習事項が身に付いているかを確認するために、導入時に問題を解く時間をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> 一部のドリル学習を授業内に取り入れて定着を図る。 問題を解く際には、内容の性質に目を向けさせ、友達に説明する活動を取り入れる。 習熟度別の指導について見直しを図る。
6年	<ul style="list-style-type: none"> 全体的に数値が上回り、基礎的な考え方や自力解決はできることがわかる。理解したことを、相手に説明することで、主体的に学習する時間を確保していく必要がある。 少人数クラスでの学習を行い、習熟度に応じた指導を続け、個別指導が可能な場面を作る必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 集団解決では、自分と友達との相違点に着目したり、説明したりし、考えを広げながら学習が深められるようにする。 習熟度が低いクラスは、基本的な知識がしっかり定着できるように授業を行い、高いクラスは発展的な学習を通して、力を高められる授業を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> eライブラリを活用し、反復的に学習し習熟を図る。 「小数の計算」「多角形と合同」「円グラフと帯グラフからの読み取り」などの問題を重点的に行う。 中学校進学を見据えて、長期休業期間や6年の総まとめの学習では、児童それぞれが自分の苦手な内容に取り組ませる。

〔様式3〕

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（理 科）

#REF!

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
3年	1・2年生の生活科の流れを受けて、児童は生き物への関心が高い。その意欲を生かして動物や植物の学習を進めているが、校内の環境では十分に多様な生物とふれあうことができない。	3年生という発達段階を考えても、体験活動を充実させる必要がある。ビオトープ、屋上、観察テラス、校庭と、本校の環境を最大限生かすのはもちろん、荒川知水資料館と連携し、総合的な学習の時間とからめて、荒川での体験・観察活動を取り入れる。	問題解決型の学習を初めて経験するのが本学年であり、学習指導要領にのっとれば、3年生の重点は「問題づくり」の場面である。だが、「予想」や「考察」など、その他の学習過程についても、基礎的な学習方法をきちんと指導して、先の学年につながるようにする。
4年	・「植物の育ち方」や「こん虫の育ち方、からだのつくり」といった自然環境の内容に課題が見られた。 ・「じしゃくのせいしつ」の内容が6ポイント以上目標値から下回ったことから、具体的な体験活動が不足していたのではないかと考えられる。	・学校の周りや校内の環境から、自然環境にあまり恵まれていないことから、実際に直接植物や昆虫に触れる機会が少ない。なので、校外学習や出前授業などを活用した学習の工夫が必要だと感じる。 ・磁石の性質についての理解を定着させるためには体験活動に時間をとる必要があるためには、教材準備をしっかりと行い、全員	・学校にあるビオトープを活用したり、理科支援員さんを活用したりして、観察の時間をなるべく確保する。 ・教科書にあるQRコードを読み取って写すことができるデジタルコンテンツや、きたコンに植物や生き物の写真を保存したりして、変化が分かるようにしたりと、ICT機器を活用する。
5年	・既習事項への定着が全体的に図れていないため、基礎基本的な問題はできるものの、発展的な問題に対する苦手意識が見られる。 ・実験や観察から分かることへの理解度が低いことから、体験する活動不足や実験の内容、方法等が理解できず取り組んでいることが推察される。	・系統性を意識し、既習事項を把握・確認したうえで授業の流れを考える。 ・教科書に載っている内容、実験方法等だけではなく、様々な方法を探れるような授業を展開する。 ・一斉指導型ではなく、問題解決的な学習が展開できるようにする。	・子ども達が体験的に覚えられるような実験を考える。 ・動画コンテンツだけではなく、本物に触れる機会をつくる。 ・予想や考察などで、自分の考えを書く活動を定着させる。友達の意見と交流させる。 ・実験用具、器具等は、自分たちで用意する。
6年	・問題→予想→実験→考察→結論といった問題解決型学習の考え方を定着させることに課題がある。児童の実態として、学習の仕方が身についている児童は見通しをもって取り組んでいるが、そうではない児童は見通せずに学習を受動的に進めている。	・児童が問題を見つける場面では、児童の生活経験や知識とのズレを狙って事象を見せることを意識する。 ・予想では、必ず全員が予想をもっている状態にする。 ・考察では、問題や予想に一度立ち返って、何を予想したのか、何を調べるために実験をしたのか、結果では何が見えたかななどを丁寧に全体で整理する。	・一人一台端末を利用して、動画コンテンツを活用したり、デジタル教科書を利用した活用方法を周知していく。 ・ICT機器を活用して、実験の様子を記録させることで、事象を見逃した児童や、忘れてしまった児童が何度も見たり聞いたりできるようにする。

〔様式3〕

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（外国語）

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
5年	・定型文ではなく、状況に応じた指導法の充実が必要。 ・考える時間、書く時間の設定により、より外国語への理解度を高める。 ・発表、説明など、表現活動の様々な形態をとることで、英語をすすんで話そうとする意欲を高める。	・思考したり、説明したりする機会も入れる。定型文を話す→答えるだけでなく、「どうしたら相手に伝わるのか」という視点も学習の中に入れる。 ・チャンツ、アクティビティだけでなく、学習方法を取り入れる。英語に親しむ環境を導入から展開する。	・同じやりとりではなく、毎時間異なった導入や授業方法を取り入れる。 ・一人一台端末を利用して、動画コンテンツを活用したり、デジタル教科書を利用した活用方法を周知したりしていく。
6年	・チャンツや歌でリスニング力は高くなってきている。しかし単語や会話の意味はわかるが、聞き取ったことを正しく書くことに課題がある。大文字も小文字も正しく書き表すことができない児童が多い。 ・主体的に外国語で話そうとする児童が少なく、自信のない児童が多いので、ALTとのフリートークがうまく活用できていない。	・外国語の一連の流れの徹底をする。 例：あいさつ→チャンツ・歌→めあての共有→課題解決(めあてに基づいたゲームや言語活動などを取り入れた練習)→振り返り→あいさつ ・上記の中でのあいさつにおいて、簡単な単語だけのフリートークを取り入れ、英語を話しやすい環境を作る。	・授業の内容に沿ったフリートークを入れていく。(単語や文章) ・デジタル教科書を活用して、正しい発音での反復練習やICT機器を活用して、パフォーマンステストの練習ができるようにしていく。